

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-102

学校名・団体名	佐世保市立小佐世保小学校
HPアドレス	http://www.city.sasebo.ed.jp/es-kosasebo/asp/default.asp
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	国語科のユニバーサルデザイン
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>①特別支援教育の考え方を取り入れた授業のユニバーサルデザインによる国語科の研究を行い、発達障害をもった児童を含む全員に「わかった・できた」という実感を持たせることができるような授業づくりを研究する。</p> <p>②学習環境をユニバーサル化し、すべての児童が学習に集中できる環境を整える。</p>	

1 活動時期、内容

(1) 国語授業 (物語文) のユニバーサルデザイン化について

授業のユニバーサルデザインの基本的な考え方は、どのクラスにもいる発達障害の可能性のある子、学力がおとりがちの子に対する指導の工夫や配慮が、クラスの他の子どもたちにも、楽しく「わかる・できる」授業づくりに通じる、というものである。つまり、特別支援教育の視点を取り入れて、教科指導の授業改善をすることである。

①授業を焦点化、視覚化、共有化の三つの視点で捉える

- ・焦点化→ねらいや活動をしぼり、物語の内容から論理へ着目し、作品のイメージが深まるようにする。
- ・視覚化→児童が授業時間を含む学校生活で、どんなことに困難を感じているかということをつかむこと。
- ・共有化→一人の考えを他の友達に伝え、理解や思考を広げたり、深めたりする。

②国語科で何を思考させるか明確にする。

多岐にわたる国語科の指導内容を、学年の系統を明らかにして、整理した「小佐世保小読みの系統 (試案)」として、研究紀要に掲載した。

③児童の実態調査 (学びにくさからとらえる)

- ・「視覚・聴覚・運動性にかかわる支援」について、全校児童にアンケート調査を実施した。



(2) 学習環境のユニバーサルデザイン化への取組

①環境の整備

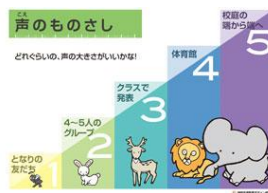
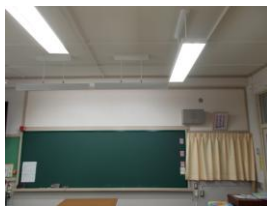
- ・教室内の妨害刺激低減
- ・机の中の整理整頓・職員室入室のきまり

②ルールのもんさし

- ・声のものさし

③互いを尊重し合う学校。学級作り

- ・学校のスローガンの掲示 (PBIAS)
- ・異学年活動の充実



④授業の構造化

- ・タイマーの活用

⑤指示や説明の工夫と配慮

- ・一文一動詞の指示

⑥学習形態の工夫

- ・一斉・グループ・ペア学習

(3) 研究発表会の開催 (11月)

1日日程であったにもかかわらず、県内外から多くの参加者があった。午前中の基調提案に続き、全学級で「フリートーク・クイズトーク」の公開を行った。さらに、授業公開をすることができた。発問や教材並びにその提示の仕方にもくふうをすることで、全員が集中して授業に臨むことができた。

午後からは、筑波大附属小学校の桂聖先生による師範授業と講演会を開催することができた。師範授業は、体育館で「詩」の授業 (5年生) が行われた。参加者からは、

- ①教師の指導の工夫や個別の配慮の大切さを学んだ。
- ②国語科の新しい指導のあり方を見ることができた。
- ③学級へ戻って、すぐにでも実践したい。等の感想が寄せられた。



(4) 成果と課題 (○成果：●課題)

- 基礎・基本の学力が身に付き、学力の向上が見られた。
- ねらいを焦点化した授業を積みかさねた結果、児童の学習意欲が向上した。
- 人間関係力づくりの基礎力が高まった。
- 児童の発言やつぶやきを取り上げ、授業を豊かに構成するための指導力の向上を、今後も一層図っていくこと。
- 児童のつまづきを想定した指導の工夫の充実を図っていくこと。

